

資料3. 現状・導入実績

福岡市内58ヶ所に導入(令和6年3月末現在)

- 手引きの策定以降、福岡市内の58ヶ所の建物に導入

福岡市内導入事例

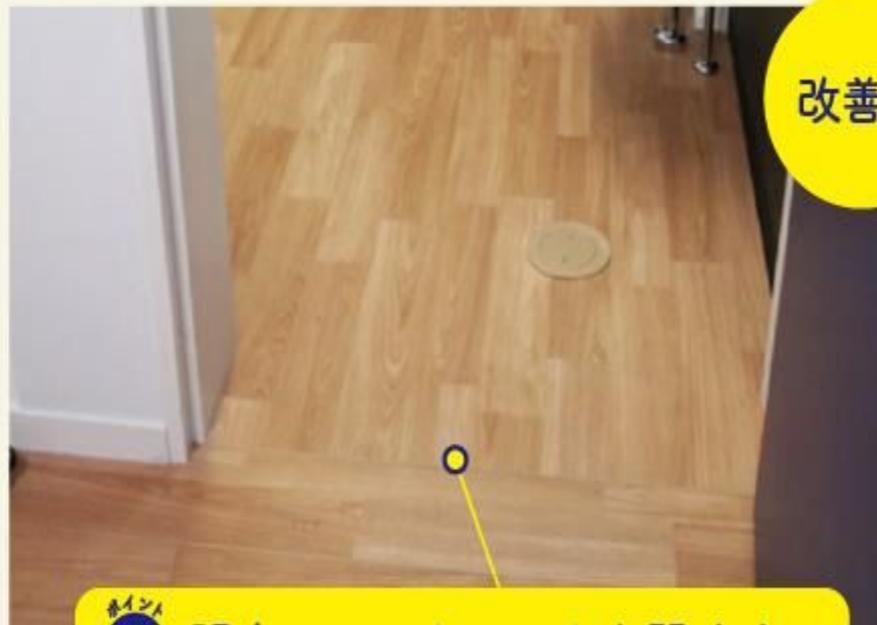


段差と認識しないよう、トイレと廊下の床の色を統一

🏠 堤公民館



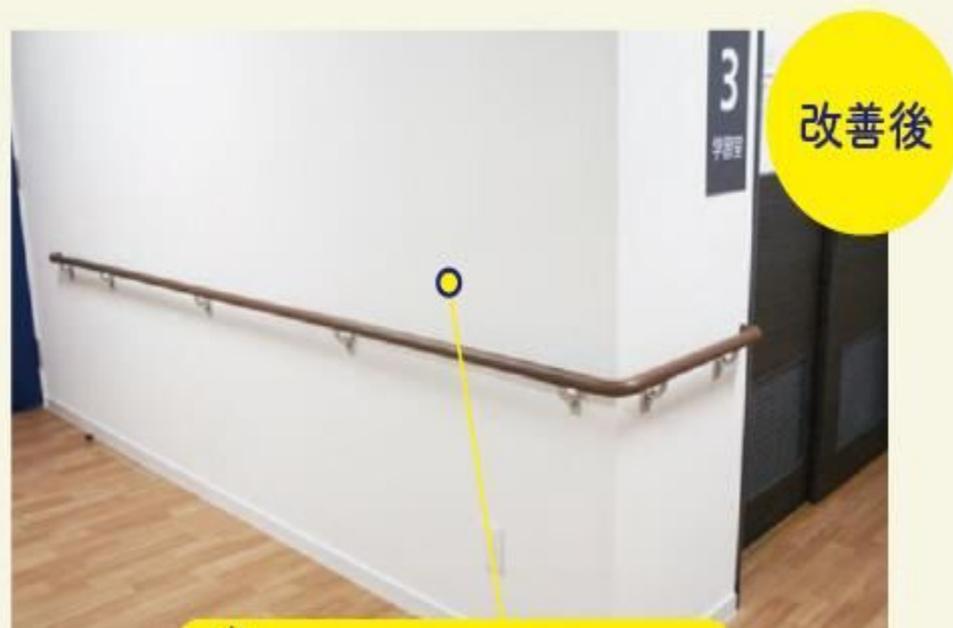
改善前



改善後

視覚的な混乱を避けるため、乱雑な掲示物は移動し、一箇所にまとめる

🏠 堤公民館



目的のものであるトイレがはっきりとわかるようにする

🏠 堤公民館



改善前



改善後

ポイント
1

明度のコントラストを強くする

壁面と床にコントラストをつけ、立体空間の認識を助ける

博多区役所

ポイント
1 明度のコントラストを強くする



特徴のあるものを作り、空間の目印とする

🏠 博多区役所

ポイント
7 適所に目印となる特徴的なものを置く



外出先でトイレが見つからない不安を減らすため、トイレの場所は分かりやすくする

博多区役所

ポイント
① 明度のコントラストを強くする

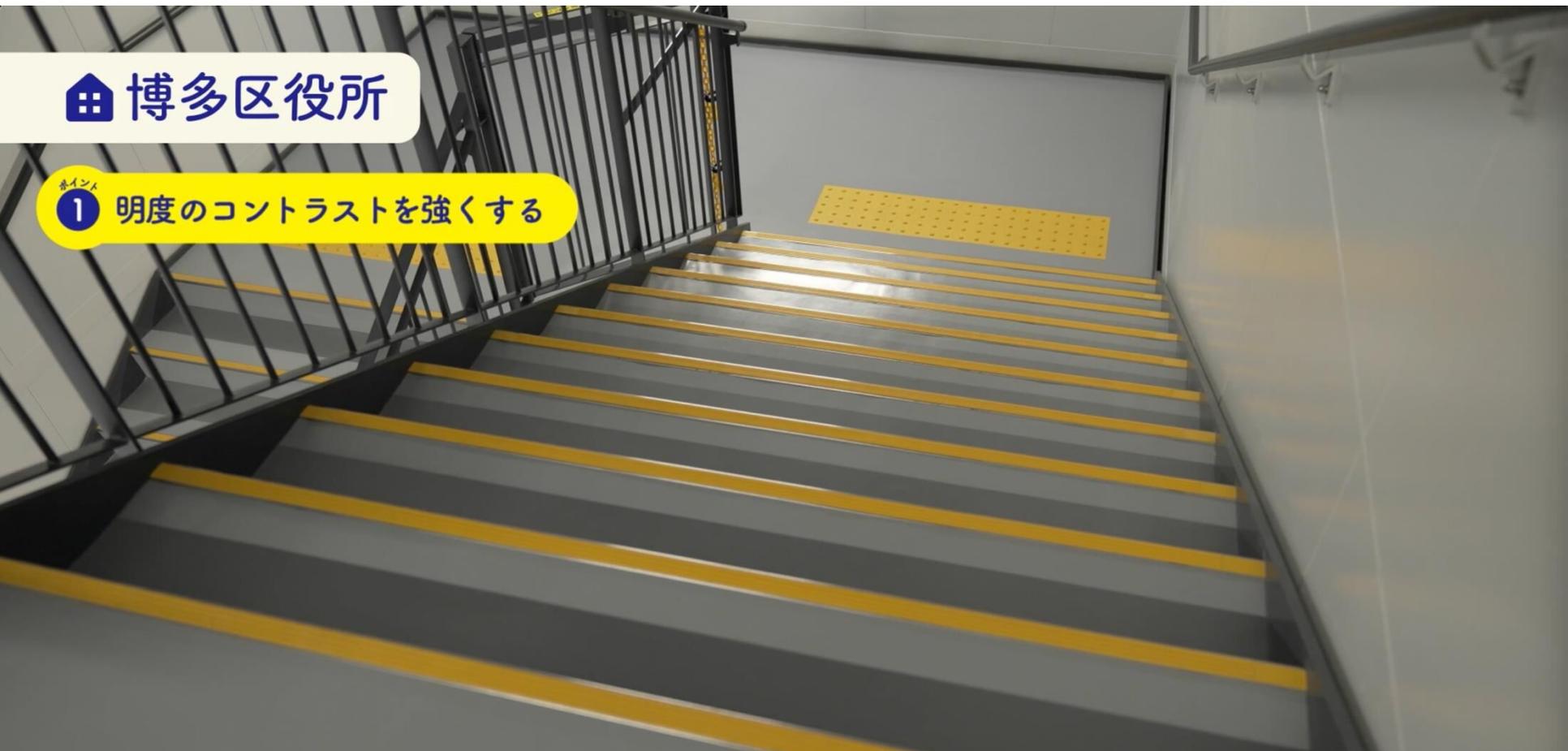
ポイント
⑤ トイレの扉にはサインをつける



コントラストを利用して、安全性と安心感の向上

博多区役所

ポイント
1 明度のコントラストを強くする



見つけたい場所がすぐに見つかるように分かりやすいサインの設置

🏠 博多区役所

📌 4 適切な場所へサインをつける

📌 3 読みやすく、わかりやすいサインをつける



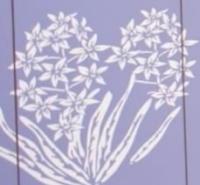
扉をそれぞれ特徴的にすることで、部屋の目印となる

🏠 香風館

ポイント
① 明度のコントラストを強くする

ポイント
③ 読みやすく、わかりやすいサインをつける

2



トイレの手がかりとして、標識だけでなく色も用いる

🏠 香風館

ポイント
5 トイレの扉にはサインをつける



目的であるトイレや、使ってほしい手すり、トイレトーパーは、探さなくてもすぐ目に入るようにする

🏠 香風館

ポイント
① 明度のコントラストを強くする



コントラストを活用して扉を明確にし、見えない場所にあるトイレは標識を利用

🏠 四箇田団地集会所(UR賃貸住宅)

ポイント

① 明度のコントラストを強くする



特徴的な壁面があることで、自分の居場所がわかる

 四箇田団地集会所(UR賃貸住宅)



トイレ、手すり、洗面台を引き立てる配色

🏠 四箇田団地集会所(UR賃貸住宅)

ポイント

1 明度のコントラストを強くする



スタッフが使用する扉は目立たなくさせる

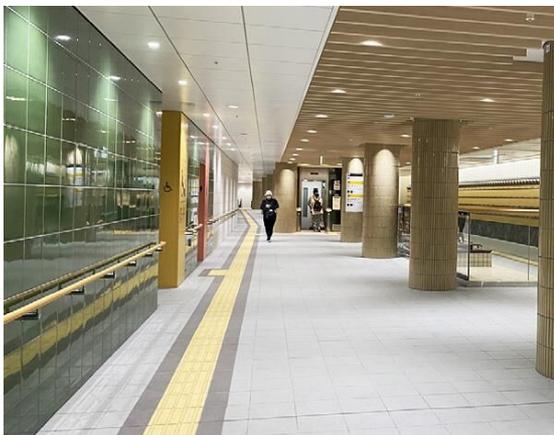
🏠 四箇田団地集会所(UR賃貸住宅)

ポイント
2 明度のコントラストを弱くする



福岡市地下鉄七隈線櫛田神社前駅

福岡市 地下鉄七隈線 櫛田神社前駅



床と壁にコントラストがあり、空間認識がしやすい。柱や手すり等認識してほしいものは周囲とコントラストをつけている。



トイレは特徴的な色を使用している。サインは認知症の人にも分かりやすいよう、人と動作を組み合わせたピクトグラムを使用している。



ピクトグラムを大きく表示し、コントラストのある色にすることで、遠くからでも認識できるようにしている。扉は周りとコントラストをつけている。

福岡市認知症フレンドリーセンター

- 「福岡市フレンドリーシティ・プロジェクトの取組みを集約し、市民や企業に最新の知見・技術の提供と国内外へ発信する拠点として2023年9月に開設
- 「認知症の人にもやさしいデザイン」を全面導入

主な機能

活躍
認知症の人が地域で活躍し続けられる場の創出

交流
認知症の人同士の本人ミーティング、認知症の人や家族・企業等の交流

学び・体験
ユマニチュード講座やARによる認知症体験などの学びの機会提供

情報発信
最新の知見や技術など認知症に関する情報発信、イベント開催

場所 福岡市健康づくりサポートセンターあいれふ2階
中央区舞鶴2-5-1(地下鉄 赤坂駅3番出口より徒歩4分)

開館 火曜日～土曜日(祝日・年末年始を除く)10時～18時

問合せ先 TEL 092-791-9115 FAX 092-791-9550
Email: contact@fdfc.jp

 あいれふ入口。
こちらを目印にお越しください。

談話室



落ち着いた空間とするため、家庭的な照明や家具の選定を行っている。
自然光を取り込んだり、十分な照明を配置することで、明るさを確保している。

入口



周囲とコントラストのある色のサインを設置し、すぐに分かるようにしている。

受付



特徴的で目印になると同時に、来る人を誰でも温かく迎える雰囲気を作り出している。

手すり



傾斜している床へ注意を引くために、特徴的で目印となる手すりを設置している。

相談室



観葉植物や絵画を配置して、落ち着いた相談ができる空間としている。

福岡市認知症フレンドリーセンターに導入されているデザインのポイント

トイレの入口

- 男性が女性トイレに、もしくは女性が男性トイレに間違ってしまうのを防ぐために、一目で自分の目的の場所がわかるような色調とサインを設置しています。



改修前



改修後

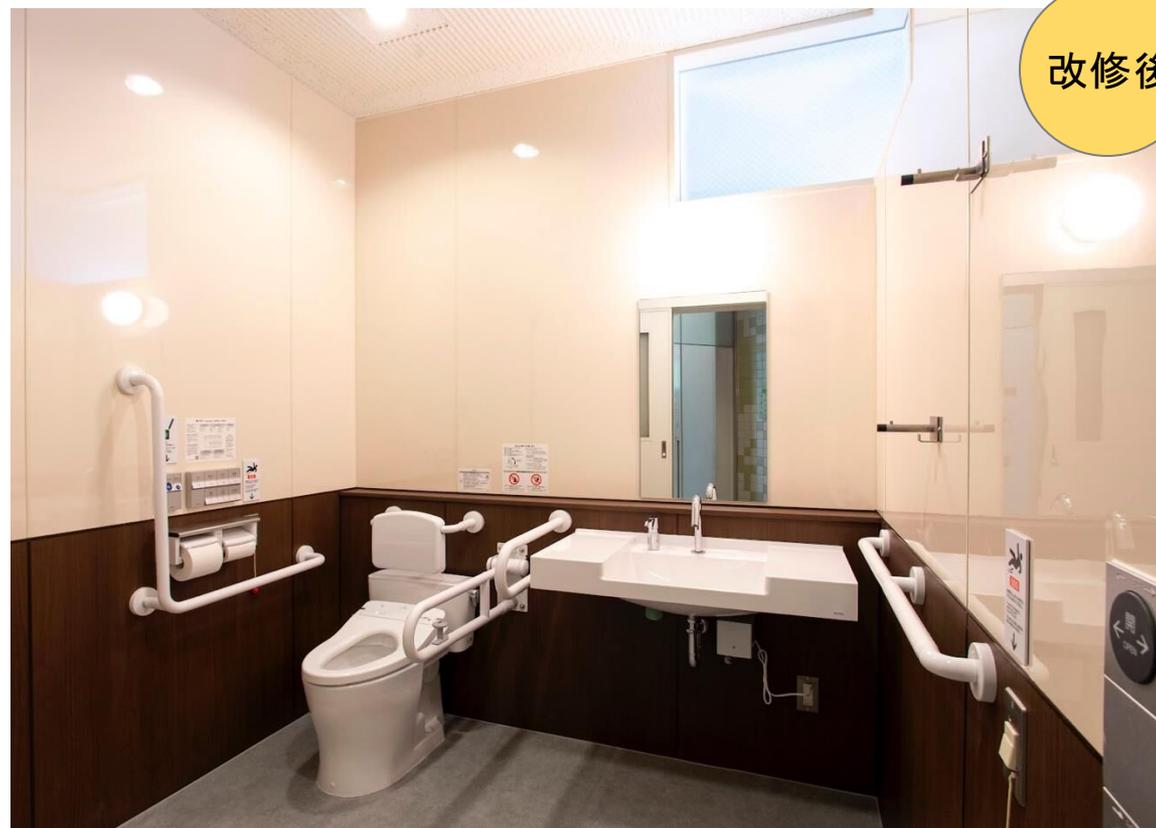
注:床、男性トイレ内、女性トイレ内は今年度改修の予定

トイレ内

- トイレ内の使って欲しいもの（便器、洗面台、手すり、トイレットペーパーなど）がわかりやすい色の組み合わせを選定しています。
- トイレ内が使用しやすいように便器の向き、手すりの配置、トイレットペーパーの位置、手すりのサイズに配慮しています。



改修前



改修後

入口

- 一目で場所がわかるように、周囲の壁とコントラストをつけたサインを設置しています。
- 照明を追加することで、視認性を高めています。



改修前



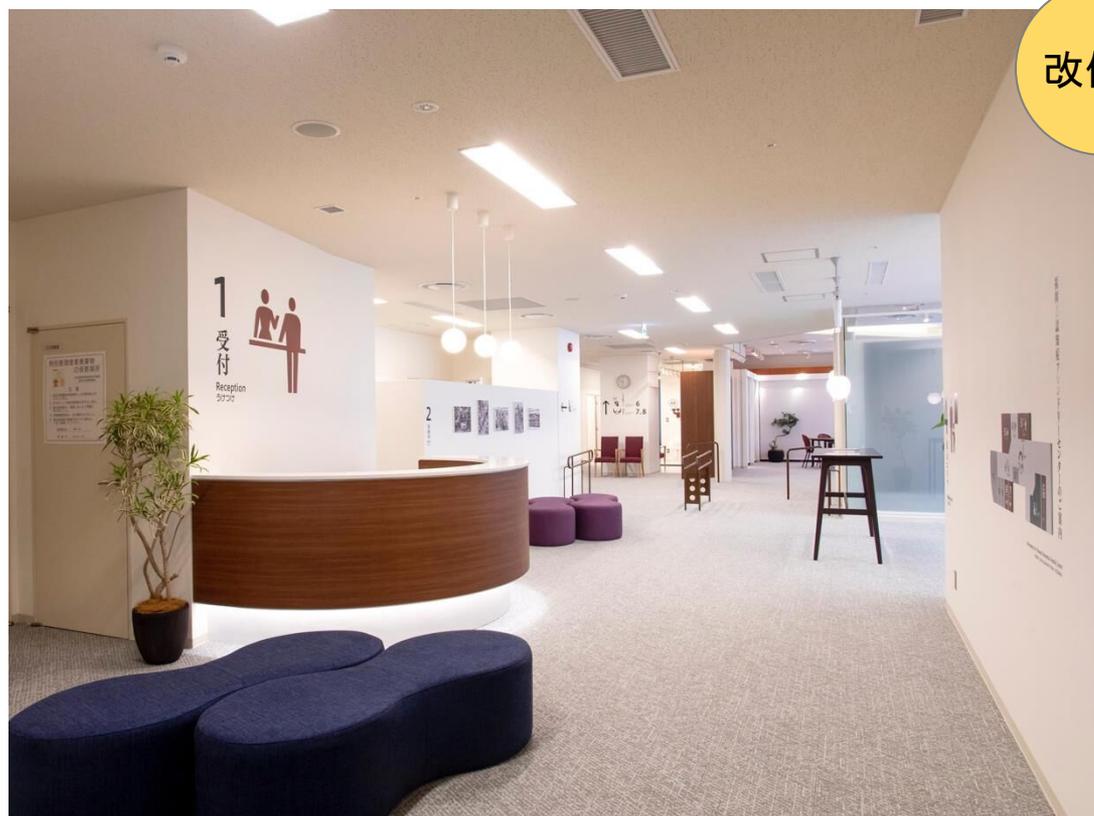
改修後

受付

- 色調、家具の形状、植栽などで温かく迎え入れる雰囲気を作り出しています。
- コントラストがあり、特徴的な家具を場所の目印として活用しています。



改修前



改修後

トイレが離れた場所にあるので、統一したサインを判断が必要な場所に配置



セミナー室

- 十分な自然光を取り入れることで、視認性を高め、わかりやすい空間にしています。
- 自然光により、明るい雰囲気を作り出しています。



改修前



改修後

廊下

- 床と壁のコントラストを明確にして、空間認識をしやすくしています。
- ごちゃごちゃ感を取り除き、必要な情報が必要なときに見つけられるようにしています。
- 家具や植栽、写真などで落ち着いた雰囲気を作り出しています。



改修前



改修後

ともに Together

認知症の経験専門家との共創

認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。

オレンジ パートナーズ

ORANGE PARTNERS

「認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。」

福岡オレンジパートナーズの取り組み

- 認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。
- 認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。
- 認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。



オレンジ 人材バンク

ORANGE TALENT BANK

「認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。」

オレンジ人材バンクの役割

- 認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。
- 認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。
- 認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。




認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。

認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。

認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。



認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。

認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。

認知症の経験者から学ぶことは、認知症の専門家から学ぶことと同じくらい大切なことです。






視覚的な障害にならないように床は統一した色調を使用しつつ、なだらかなスロープがあることに気づいてもらうために、コントラストがあり、特徴的な手すりを配置

談話室

- 立体空間認識をしやすい色を組み合わせています。
- 視覚的な情報量を最適化し、情報が過度にならないように努め、情報へのアクセスをしやすいとしています。
- 自然光と照明を組み合わせ、空間の照度を高めています。





自然との関わりは心を落ち着かせてくれるものです。センター内では各所に緑を配置していますが、これも認知症の人にもやさしいデザインです。

昔の記憶(長期記憶)は長い間保持されることが多いです。昔の写真を掲示することで、単に懐かしいだけでなく、会話のきっかけになり、会話に自信が持てたり、人との交流を促進します。





落ち着いたセンタースタッフに相談
をしたり、一人でゆっくり時間を過
ごしたりできる空間

橋本駅駅前広場

- 屋外エリアへのトライアル導入として、橋本駅周辺地区の駅前広場、駐輪場、公園、道路へ認知症の人にもやさしいデザインの導入が進められている



リニューアルオープンとして2024年5月31日に供用開始



導入事例3: 橋本駅駅前広場

事故のリスクを減らすために歩道と車道の色を明確に分けた路面

天候に影響を受けずに快適に利用できる屋根付きの歩道



目的の場所が分かりやすいサイン

疲れたら座れるように各所に設置されたベンチ



橋本駅駅前広場事後評価

橋本駅駅前広場事後評価

目的

- 七隈線沿線地区のデザイン導入箇所について、認知症の人にもやさしい環境の現地調査を実施し、効果分析を実施する
- 現地調査の結果をもとに、屋外における認知症デザインの導入やその効果についてまとめを行う

評価フィールド

- 認知症の人にもやさしいデザインの導入有無で、同規模の駅前広場（橋本駅、周船寺駅）で効果を検証



橋本駅(導入あり)



周船寺駅(導入なし)

橋本駅駅前広場事後評価

評価の軸(案)

1

サイン

- サインを8つの要素で評価
- 情報の連続性、情報の配置性、情報の顕在性、情報の視認性、情報の理解性、情報の多様性、情報の景観性、エモーショナル

2

空間

- 交通結節点・魅力ある公共空間として求められる評価軸と認知機能低下高齢者の利用からみた評価軸から、6つの分野で評価
- 安全性、利便性、連続性、滞留快適性、景観性、認知性

3

認知症デザイン
導入度

- 認知症デザイン導入度を「高齢者と認知症の方のための環境デザイン評価ツール(EADDAT)」にて評価

4

導入プロセス

- 導入時のプロセスや費用などを検証し、成果が出て継続すること、解決すべき課題を明確にする

評価の軸(例1)サイン

4 認知症の人にもやさしいサイン計画における配慮項目

A 基本的に求められる項目

A-1 情報の連続性

動線上の起点から目的地点に至る道程で、情報がとぎれることなく提示されているか？

A-2 情報の配置性

動線上の起点、分岐点、目的地点ごとに適切な情報が配置されているか？

起点/案内サイン

分岐点/誘導サイン

目的地点/記名サイン

A-3 情報の景観性

周囲の景観を阻害していないか、景観を向上させているか？

(A-4 エモーショナル性)

使って楽しいか？使いたくなるか？わくわくするか？

B 高齢者・認知症の人の移動を支援するサインで特に考慮したい項目

B-1 情報の顕在性

移動中に必要な情報が目に止まるか？見つけやすいか？

B-2 情報の視認性

情報が見やすく表示されているか？

- 低めの表示高
- 大きな表示サイズ
- 表示のコントラスト
- 色覚対応の色彩

B-3 情報の理解性

情報がわかりやすい表現で表示されているか？

- 少ない表示量
- わかりやすい文章
- 直感的に理解できる記号
- 理解しやすい地図表現
- 単純でわかりやすい図版の
- 可読性が高い書体

評価の軸(例2)空間

橋本駅前広場の空間デザインに対する6つの評価軸

交通結節点・魅力ある公共空間として求められる評価軸



認知機能低下高齢者の利用からみた評価軸



- I. 安全性
- II. 利便性
- III. 連続性
- IV. 滞留快適性
- V. 景観性
- VI. 認知性

評価の軸(例3) 認知症デザイン達成度



Environments for ageing and dementia design assessment tool

- 高齢者・認知症環境デザイン評価ツール (Environments for Ageing and Dementia Design Assessment Tool, EADDAT)は、認知機能の変化のためのデザインに関する最新の研究をベースに、スターリング大学により開発されたもの
- 個人、行政や企業、医療・介護・建築の専門家が、高齢者や認知症当事者が利用しやすい住居、施設、公共の場を作るためのツール
- ロンドン交通局と英国カークリーズ・カウンシルによる試験運用を経て、現在、住宅、レストラン、カフェ、公共施設などをより利用しやすくするために利用することができる
- 12分野について達成度評価
 - 屋外スペースとウォーキングルート、公共交通機関、駐車場、エントランス、垂直方向の移動、トイレ、コントラスト、模様と色、備品・建具・仕上げ、照明・光、騒音、サインと案内表示



スケジュール

- 評価の軸を3者(定村先生、柴田先生、木内氏)で分担して実施
- 現場調査は9月後半から10月に実施予定
- 事後評価の結果(速報)は、第二回ガイドライン化検討委員会で報告予定

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
キックオフ									
実証計画策定									
実証準備									
実証実施									
実証結果まとめ									
結果報告									
全体取りまとめ									